

1. 日時 平成 29 年 6 月 26 日（月） 15：00～17：00
2. 場所 大阪府立桃谷高等学校 会議室
3. 出席者（委員）  
中島順次会長 田口直美委員 新澤信子委員
4. 主な内容 平成 29 年度学校経営計画および平成 29 年度学校教育計画について
5. 説明・協議

【通信課程の報告】

〔1〕平成 29 年度学校経営計画の説明

①本校の概要

在籍…2091 名 そのうち活動生は 1787 名（85.5%）

クラス…計 46 クラス（昼間部 29 クラス、日夜間部 17 クラス）

在籍生徒の年齢構成…通信全体での平均年齢が 20.3 歳（昼間部は 19.1 歳。日夜間部は 22.5 歳）

- ・自学自習が困難な生徒が年々増加している。

志願者の状況…昼間部は需要が高く、中卒には人気

- ・平成 25 年度から昼間部の入学者の定員を 200 名から 230 名にとし、日夜間部の定員を 150 名から 120 名とした。

卒業生の状況…平成 28 年度は 371 名が卒業した。

- ・正規就職男女合わせて 65 名
- ・大学等への進学状況は男女合わせて 63 名
- ・「自宅待機者」は 98 名 進路部を中心としてソーシャルスキルトレーニング等で社会に出てからの力をつける講座を開設し、対策をとっている。

部活動の参加状況

- ・男女合計で 155 名がいずれかの部活動に所属している。
- ・文科系クラブは生徒秋季発表大会に毎年参加しており、様々な賞を受賞している。
- ・陸上部は男女合計 4 名が全国大会に出場

②平成 29 年度学校経営計画及び学校評価

本年度の入学生徒に対して入学理由調査について

- ・昼間部の生徒で「不登校のため」が約 30%
  - ・「病気や障がいのため」は約 25%
- 登校が困難な生徒や基礎学力に不安を持つ生徒が多い。

学校設定科目の充実

- ・基礎学力の不足している生徒のために国語科、社会科、数学科、英語科において入門科目や基礎科目を増やす。

通信制で学ぶ生徒層の変化に対応する教育システムの確立

- ・校務処理システム委員会を中心としてシステム開発、発展に取り組んでいる。

「確かな学力」「豊かな人間性」の育成とその実現に向けた教職員の資質向上

- ・スクーリング力向上委員会を新設
- ・スクーリング見学月間を6月現在、実施している。  
→100%の実施率をめざす。
- ・NHK高校講座の活用によるスクーリング代替の実施を推進していく。
- ・国・数・英の各教科による進学者対象講習希望生徒に実施していく。

#### 生徒支援と相談体制の強化・充実

- ・新入生の各担任が三者面談を実施する。
- ・担任が卒業予定生全員と面談を実施する。
- ・昨年度に引き続き、「ほとりカフェ」を開催

#### 卒業後の進路を見据えた進路指導の充実

- ・A<sup>1</sup>ワーク創造館と連携を行い、キャリア教育を行う。
- ・分野別の説明会、保護者向け説明会の参加者を増やすための工夫を行う。

#### 情報発信・広報活動の充実及び地域と連携した防災教育の取組

- ・HPに全教科のページを設け、内容の充実を図る。  
→携帯連絡メール（桃通メール）を活用し、生徒・保護者への積極的な情報発信を行う。

#### [2] ほとりカフェの説明

- ・平成27年度から実施
- ・昨年度より時間帯がスクーリングの時間帯と重なるという反省を踏まえ、平成28年度からは昼間部と日夜間部の時間の間に実施した。
- ・平成27年度に続き、平成28年度に継続してほとりカフェを利用していた生徒は20名。新入生の利用者は7名であった。
- ・平成28年度の2範囲からは合計12日間実施した。
- ・今年度はスクーリングのある金曜日で年間11日開室を予定している。
- ・中途退学防止のため、担任からの案内を行っていく。

#### [3] 生徒の進路状況について

##### 進路だよりの紙面拡大、拡充をし、様々な情報を発信を充実

##### 進学について

- ・大学では近畿大学に2名。その他、四天王寺大学や追手門学院大学、関西福祉科学大学など
- ・短大では大阪信愛女子大学に看護で一人合格し、その他2名短大に進学
- ・通信制大学・短大に進学する生徒も毎年何名か進学し、今年度は短大に行く人が増えた。
- ・専門学校は多種多様であり進路先は分散した。
- ・浪人生の方では信州大学工学部1名、関西大学の文学部1名が進学

##### 就職について

- ・就職登録者は昨年度を超えて現時点で90名を超えている。
- ・コミュニケーションが苦手な生徒も進路として指導していきたい。

#### [協議・質問事項]

- ・「豊かな人間性」を育むための具体的にどのような取り組みをしているのか。  
⇒総合的な学習の時間等の利用や部活動を充実させ生徒が活動する場を設ける。また教員とのコミュ

ニケーションの中で豊かな人間性を育んでいく。

- ・NHK高校講座の活用とは具体的にどのような内容なのか。

⇒NHK高校講座を視聴し、その内容に関する報告書を作成し、提出することによりスクーリングの代替にすることができる。総合的な学習の時間で番組の紹介などを行っている。

#### 【定時制Ⅲ部の報告】

##### [1] 学校経営計画及び学校評価についての説明

- ・在籍人数…在學生 226 名で今年度がスタートした。
- ・めざす学校像「安全で安心な居場所で小さな成功体験を積み重ねることで生徒を社会参画する市民として育て、社会に送り出すセーフティネットとしての学校をめざす。」について概要説明。
- ・本年度の取組み内容及び自己評価について説明。

##### ① 個に応じた学習指導の工夫に努め、学力の向上を図る。

- ・授業を魅力あるものにして生徒の登校をうながす。
- ・授業改善推進チームを設立し、授業力の向上をめざす。
- ・「授業集中キャンペーン」実施について現在検討中である。

##### ② 授業改善推進チームについて

- ・昨年度大阪府教育センターの指導のもとパッケージ研修支援Ⅱを実施した。
- ・今年度、准校長の指導のもと「授業改善推進チーム」を発足させた。  
メンバーは首席・カリキュラムマネージメントリーダー・公募者を募って構成している。
- ・「主体的・対話的で深い学びの要素を取り入れた授業モデル」を全教科で作成し、その研究授業を行うことにより桃谷Ⅲ部の授業スタンダードの確立を目指す。
- ・取組みの一環として7月7日に校内研修を行う。
- ・7月14日には首席による示範授業を行う。
- ・夏季休業期間及び後期の開始までに全教科授業モデルを作成し、11月から1月の間に研究授業を行い、校内全体で研究協議を実施する。
- ・3人の初任者に対して、模擬授業や研究授業を行う予定である。

##### ④ 授業規律の確立とスマートフォン指導、「授業集中キャンペーン」について

- ・前年度は授業中のスマートフォン使用をやめるようにポスターなどを掲示して啓発を行い、授業中に使用している生徒に対して指導した。
- ・効果が得られたので今年度は具体的な指導内容を加え、始業式で生徒に対し周知徹底を行った。
- ・指導内容を明示することで指導もしやすくなり、さらに効果をあげている。
- ・スマートフォン指導を推進していくことで、集中して授業に取り組める体制を確立させていく。

##### ⑤ キャリア教育・進路実現について

- ・「課題早期発見フォローアップ事業」の学校に指定されたことにより、一層の生徒の居場所づくりと支援ができるようになった。
- ・「課題早期発見フォローアップ事業」を活用した支援体制について説明。
- ・事業内容はNPOとの連携により生徒の居場所づくり。外部人材を活用した課題のある生徒の早期発見と早期解決をめざすものである。
- ・本校での居場所づくりについては、主に登校の動機づけや不登校生徒の早期発見を主な目的として

いる。具体的には「かめカフェ」を設置し、授業前・給食中・授業後に利用できる。このカフェには教員が一切立ち入らないというのが特徴である。

・火曜日・水曜日の開催で、現在までに6回開催し、実人数24名、のべ人数73名の利用がある。

⑥ キャリアカウンセラーの活用について

・進路未決定者の減少と、早期の離職を防ぐのが目的である。

・昨年度7回の来校であったキャリアカウンセラーを13回に増加することができ、生徒の進路実現に向けて動いている。

・教員以外の意見を聞くことで職業観・勤労観の育成を目指している。

⑦ 人権教育について

・参加体験型の人権研修が少ないという学校教育自己診断の結果を踏まえ、今年度の参加体験型人権HRなどを検討中である。

・危機管理マニュアルの周知徹底や防災対策の指導などを充実させる。今年度はじめて夜間にすべての照明を消して避難訓練を行なった。

⑧ 組織運営について

・月曜日に運営会議が行われ、分掌会議が火曜日、年次会議が水曜日、職員会議を木曜日に行うことでスムーズに情報伝達が行われている。

⑨ フレッシュマンセミナーについて

・Ⅲ部に在籍する教員の平均年齢33.6歳（再任用職員を除く）

・本校のみの職務経験者の割合が85%

・教員の本校での平均経験年数が3.6年であることを踏まえ、若い職員の研修、人材育成が重要であると考えられる。

・本年度のフレッシュマンセミナーの重点課題は「自ら意見を発信し、他の教員と相談する姿勢を養う」ことであり、研修を受けた上で後半にはスキルの実現のために発表の機会を設ける。

[協議・質問事項]

・スマホ対応について、現在生徒が自主的にスマホをカゴに預けているのか？

⇒自主的にスマホを預ける生徒はいないが、注意の段階を踏まえて預かることはある。去年の後期から啓発を行い、今年度から具体的に指導している。

・保護者に連絡はするのか。

⇒スマホ指導に限らず喫煙指導も同じであるが、成人の場合は保護者に連絡はしない。

昨年度よりもあきらかに指導による成果が出ており当面はこの形式での指導を行う。

【Ⅰ・Ⅱ部の報告】

[1]「平成29年 学校経営計画及び学校評価」について

○中期的目標「1 本校のあり方や方向性の検討と、生徒・保護者・地域等の期待に応える教育活動の展開」について

(1) 生徒の現状を正確に把握するために、生徒・保護者懇談や家庭訪問など家庭との連携を図る。

(2) 本校の教育活動への理解を促進するため、広報活動の充実を図る。

・本校の存在意義、大阪府におけるミッション、学校の制度をしっかりと理解してもらうことで、中退防止にもつながると考えている。

(3) 職員研修の充実

(4) 学校協議会と学校教育自己診断結果を活用して教育活動を進める。

○中期的目標「2 生徒の現状をふまえた「学びのシステム」の構築、進路指導体制の充実」について

(1) 希望進路の実現に向けた「学びのシステム」を充実させる。

・ 桃谷版キャリア教育「ももだにプロジェクト」を完成させて実践する。

(2) 充実した学びなおしの環境をめざす

・ 学校設定科目の増設や習熟度別の授業の編成を強化する。

・ 教科の取り組みとして、補習、補充授業、講習などを充実させる。

(3) 全教員、全授業でわかる授業の実現をめざす

・ 生徒向け学校教育自己診断の「授業はわかりやすい」の肯定的回答率を平成 31 年度までに 80%以上。

○中期的目標「3 生徒の自尊心を回復し社会性の向上を図る取り組み及び人権教育の確立」

(1) 総合的な学習の時間やHRで人権教育の充実を図っている。

(2) 中退防止PTを編成し、これを中心に、生徒分析、生徒指導体制の確立を図っている。

(3) 教育の相談体制

・ 外部との連携

(4) 自主活動（部活動、生徒会活動）を充実し、社会性を育成する。

[2]「ももだにプロジェクト」の取り組みについて

・ I・II部の全取り組みが網羅されている図

・ 最終的には「生きる力」の育成をめざす。そのために、受講指導（教務部や担任が中心）を行い、授業、特別活動・総合的な学習の時間を大切にする。総合的な学習と特別活動は、進路指導と結びつけ、常に進路指導の立場も踏まえて考える。課外活動についても大事にする。

・ 規律指導、教育相談体制、支援教育体制を含めた三位一体の生徒指導も重要

[3]今年度の具体的な取り組みと評価指標について

中期的目標「1 本校のあり方や方向性の検討と、生徒・保護者・地域等の期待に応える教育活動の展開」

(1) 保護者懇談や家庭連絡を通じて生徒の状況を正確に把握するとともに、単位修得へと結びつくように指導を行う。→保護者懇談の実施率を指標に

(2) 真に本校を必要とする生徒・保護者に本校の情報を正確に届け、中退防止のために入学前に本校のことを広報

(3)・本校が必要とする教員力を向上させるための研修会の実施

研究会等の外部研修の積極的案内と参加及び研修報告会の実施。

・ 桃谷メンタープログラム（MMP）の実施。3年目までの教員を中心として研修を行う。  
十数回開催予定。

中期的目標「2 生徒の現状をふまえた「学びのシステム」の構築と、進路指導体制の充実」

(1) 「ももだにプロジェクト」で各教科等での役割を再確認し育成したい能力、具体的取り組みの設定アウトカム指標を、入学時、1年次、2年次、3年次でどのような変化をたどっているかを調べ、その評価を行う。（昨年度より）

(2) 「わかる授業」をテーマにした継続的授業研究

- ・授業見学月間を6月と1月に実施。全ての教科で研究授業を実施し、見学感想表の提出、教員間での共有

中期的目標「3 生徒の自尊心を回復し社会性の向上を図る取組み及び人権教育の確立」

- (1) 人権学習プログラムを桃谷版「ももだにプロジェクト」の中に位置づけ、参加体験型も含めてH29新入生クラスで系統的に実施し、重視していく。
- (2) (3) 支援教育、規律指導、教育相談という本校の根底にある指導。三位一体による教育活動の展開。「高校生活支援カード」を活用した「個別の教育支援計画」の作成および活用  
教育相談に関して、従来から学校独自の臨床心理士をSCとして招聘。支援とカウンセリングの観点を持った毅然とした規律指導。三位一体による教育活動の展開を今年度もめざしていきたい。

[協議・質問事項]

- ・「ももだにプロジェクト」の取組みで、「生きる力」の育成を目標にしているが、どのように育成するのか？  
⇒現行の学習指導要領の内容。本校なりの解釈で生きる力の育成のため「ももだにプロジェクト」図中真ん中の点線の四角囲みを中心に、その力を育てていこうということで設定
- ・3校の報告で共通しているところとして、教員の平均年齢が若い。わかる授業という授業改善に向けた取り組みをしていると思うが、例えば、通信制は通信制で、多部制は多部制でそれぞれでやっているのか、共通のプロジェクトのようなものでやっているのか？  
⇒授業方法としては共通してできるものは一貫してやっている。一つ一つの学校では、それぞれ生徒の状況や授業でめざすところが違う部分があるので、今現在は別々に、それぞれ独自に実施
- ・それぞれの例えば授業改善であれば授業改善のリーダーの先生が情報交換することはあるか？  
⇒授業改善というのでは一緒かもしれないが、例えば、授業の最初にめあてを書いて説明するのはどこでも共通していると思う。
- ・スタンダードをつくるために他校の取り組みを取り入れてみてはどうか。I・II部では、スタンダードというものはつくりにくいものなのか？  
⇒同じような形でできると思う。共通認識はしていかなければならないと思う。ご指摘いただいたところは改善していきたいと思う。
- ・授業研究に使える時間が限られていると思う。しかも、新任の先生が多いなかで、例えば活用できるような、データベース化するであるとか。  
⇒授業見学月間もあり、情報を共有する機会がある。ICTの活用や場面展開で生徒の声を拾うなどは大事だと思うので、参考にしていきたい。

【平成30年度教科書採択（案）について】

- ・「平成30年使用教科書用図書選定理由書について」という資料が各部ある。
- ・現在各課程において、観点に基づき、各教科の教員が慎重に検討し7月21日の締め切りに向けて選定をしている。教科書の一覧をご提示することはできないが、選定経過の概要等により、慎重に決定する。
- ・次回、第2回学校協議会で結果の報告をする。